

J.S.Bach Sinfonien

バッハ シンフォニア

第2番 ハ短調 BWV788

- 楽曲分析と演奏法 -

著者：市花 真弓

目次

はじめに、インヴェンションとシンフォニアについて	3
1. バッハ「シンフォニア」第2番 c moll BWV 788 楽譜	4
2. 主題と対旋律と装飾記号の演奏について	6
3. バッハ「シンフォニア」第2番 c moll BWV 788 第I展開部の楽曲分析と演奏法について	8
4. バッハ「シンフォニア」第2番 c moll BWV 788 第II展開部の楽曲分析と演奏法について	10
5. バッハ「シンフォニア」第2番 c moll BWV 788 第III展開部の楽曲分析と演奏法について	12
6. 楽譜に1～4のアナリゼの内容を表記しました。 テンポ、強弱も記しました。	15

■はじめに

2003 年度からメールマガジンの配信システムを利用しました音楽講座としまして、「バッハ インヴェンションを弾いてみよう！- 楽曲分析と演奏法 -」の発行を始め、2012 年に PDF 書籍版に移行致しました。思いがけず、多くの皆様にご利用頂け、パソコンの前で頭が下がる思いであります。

2019 年 3 月 ～ 2020 年 5 月、バッハ インヴェンション全 15 曲の全面作り直しを致しましたが、シンフォニアも同様に全面作り直しをする事と致しました。作る度に新たな発見などあり、このように音楽に向き合っている今に感謝しております。(2020 年 6 月)

■インヴェンションとシンフォニアについて

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (*Johann Sebastian Bach* 1685-1750) のクラヴィーア曲は、その大部分がケーテンの宮廷楽長時代 (1717~1723) に書かれました。インヴェンションとシンフォニア BWV 772-801 (*Inventionen und Sinfonien* BWV 772-801) も、「フランス組曲」「イギリス組曲」「平均律クラヴィーア曲集第 1 巻」などと共にケーテン時代に書かれた作品の一つとなります。クラヴィーア曲の多くは、教育目的として書かれました。バッハには、自身が「いずれも生まれながらの音楽家」と誇らしく語る息子たちがおり、とりわけ豊かな才能に恵まれていた長男ヴィルヘルム・フリーデマンの教材として「ヴィルヘルム・フリーデマン・バッハのためのクラヴィーア小曲集 (*Klavierbüchlein für Wilhelm Friedemann Bach*)」(1720 年頃) が編まれました。この曲集の中に「インヴェンション」の最初の形が見出される事となります。そこでは、2 声の曲が「プレアンブルム」(*Praeambulum*)、3 声の曲が「ファンタジア」(*Fantasia*) と題されていました。その後、バッハはさらに改訂し、1723 年に配列も変え、題名も 2 声曲を「インヴェンツィオ」、3 声曲を「シンフォニーア」と改めました。

自筆浄書譜には次のような表題があります。

「クラヴィーアの愛好家、とりわけ学習希望者が、まず 2 声部をきれいに弾き分けるだけでなく、さらに上達したならば、オブリガートの 3 声部を正しくそして上手に処理し、それと同時に、すぐれた楽想を得るだけでなく、それらを巧みに展開すること。そしてとりわけ、カンタービレの奏法を身につけ、それとともに作曲の予備知識を得るための、はっきりした方法を示す正しい手引き。」

シンフォニアもインヴェンション同様に、曲集に採用されています 15 調は、ハ長調 - ハ短調 - ニ長調 - ニ短調 - 変ホ長調 - ホ長調 - ホ短調 - ヘ長調 - ヘ短調 - ト長調 - ト短調 - イ長調 - イ短調 - 変ロ長調 - ロ短調 と 嬰ヘ短調、嬰ハ短調、変イ長調を除く 15 調が上行形に整えられています。(シャープ、フラット 4 つまでの調です。)

Sinfonia 2

Johann Sebastian Bach
BWV 788

The musical score for Sinfonia 2, BWV 788 by Johann Sebastian Bach, is presented in six systems. Each system consists of a treble and a bass staff. The key signature is B-flat major (two flats) and the time signature is 12/8. The notation includes various musical symbols such as notes, rests, accidentals, and fingerings. The first system shows a treble staff with a melodic line and a bass staff with a supporting line. The second system continues the melodic development in the treble. The third system features a trill in the treble and a more active bass line. The fourth system shows a complex melodic passage in the treble with many accidentals. The fifth system includes a trill in the bass and a melodic line in the treble. The sixth system concludes the piece with a final melodic flourish in the treble and a supporting line in the bass.

2. 主題と対旋律と装飾記号の演奏について

この曲は、後半に主題の登場が全くない珍しい構成となっています。他のインヴェンションやシンフォニアにはない独特の形式と言えらると思います。

主題と対旋律です。

The image shows a musical score for a piece in 12/8 time, key of B-flat major. The main theme is marked with a red bracket and labeled '主題' (Main Theme). It consists of two parts, A and B. Part A contains motifs 'a' and 'b', while part B contains motifs 'b' and 'c'. The counter-melody is marked with a green bracket and labeled '対旋律' (Counter-melody). It is shown in the bass staff and contains motifs 'b' and 'c'.

主題は、前半 A と後半 B に分けて捉える事が出来ます。そして、前半 A の中に動機 a が置かれ、後半 B は、動機 b により形成されています。下声の対旋律中にも、動機 b が置かれ、もう一つの動機 c も対旋律中に置かれています。

2小節後半の動機bのH音を1オクターブ上げてみますと
となり、後半の動機bは前半の動機bと対称しています。

The image shows a musical score for a piece in 12/8 time, key of B-flat major. It shows motif 'b' in the main theme, with the H note raised one octave.

同様に、下声の対旋律中の動機bの後半を1オクターブ下げてみますと、

The image shows a musical score for a piece in 12/8 time, key of B-flat major. It shows motif 'b' in the counter-melody, with the H note lowered one octave.

動機bを下行する音型となり、やはり対称していると見てとれます。

この曲の装飾記号は、1723年の清書譜には、7小節上声、15～16小節の下声、30小節上声の  (トリラー 私の楽譜では  を使用しています。) 以外は記されていないようです。版によっては小さく、又は括弧に包んだ装飾記号が記されていると思いますが、必ず奏さなくてはならないという訳ではありません。私の楽譜には、3箇所のトリラーのみ記させて頂きました。このトリラーも、どこまで装飾音を奏するか演奏者により様々だと思ひます。